

2016年9月期決算説明会



株式会社アサカ理研

2016年11月30日

目次

- **第一部 2016年9月期決算実績**
- **第二部 2017年9月期業績予想**
- **第三部 経営戦略について**

- **前期比「減収」「増益」**

- **売上高変動の主要因**

- (増加要因) 金の出荷量増加
- (減少要因) 金の受託加工取引割合上昇



減収

- **利益変動の主要因**

- 金属価格の下落
- 環境事業での販売数量減少
- レアメタル・レアアース事業化による
全社費用減少
- 製造の効率化
- 全社的なコスト削減
- 特別利益へ補助金収入を計上



増益

■ 国内景気

- 経済・金融政策を背景に、企業収益の改善・設備投資の増加がみられる
- 一方、個人消費は力強さを欠く状況で推移

■ 電子部品・デバイス工業

- モバイル情報端末、車載向けの需要により生産は堅調
- 増産に向け、国内での設備投資を実施

■ 金属価格

- 金：底堅く推移するものの、年間を通じて前期を下回る
- 銅：前期平均比は21%下落、当期末では前期末比31%下落

■ 貴金属、環境事業の拡大

- 貴金属事業

国内: 既存取引先の深耕と新規開拓

海外: マレーシア子会社での貴金属事業の展開

- 環境事業

光触媒などの新規製品の販売拡大

■ レアメタル・レアースのリサイクル技術開発

- リサイクル技術の事業化

- リサイクル品目の拡大と効率化の研究開発・生産技術開発を継続

■ 既存事業の効率化

- 貴金属製造工程の自動化、製造工程・管理部門のコスト削減による体質強化

決算ハイライト

	2015年9月期		2016年9月期	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	前年同期比	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	8,964	7,790	▲ 1,174	▲ 13.1
売上総利益	1,469	1,443	▲ 25	▲ 1.7
営業利益	210	224	13	6.3
経常利益	185	189	3	2.1
親会社株主記帰属する 当期純利益	125	227	101	81.0

- 売上高：金の受託加工取引割合の上昇により減少
- 当期純利益：補助金の計上104百万円もあり大幅増

セグメント別業績①

	2015年9月期		2016年9月期			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
連結売上高	8,964		7,790		▲ 1,174	
貴金属事業	8,133	89.4	7,042	88.9	▲ 1,091	▲ 13.4
環境事業	765	8.4	648	8.2	▲ 116	▲ 15.2
その他	195	2.2	227	2.9	31	32.6
計	9,094	100.0	7,918	100.0	▲ 1,176	▲ 12.9
消去	▲ 129		▲ 127		▲ 2	
セグメント利益	185		189		3,818	
貴金属事業	109	59.0	212	112.1	102	48.4
環境事業	68	36.7	▲ 44	▲ 20.8	▲ 112	-
その他	8	4.3	21	11.3	13	66.1
計	185	100.0	189	100.0	3	2.0

レアアース・レアメタルは貴金属事業に含めております。

セグメント別業績②

貴金属事業

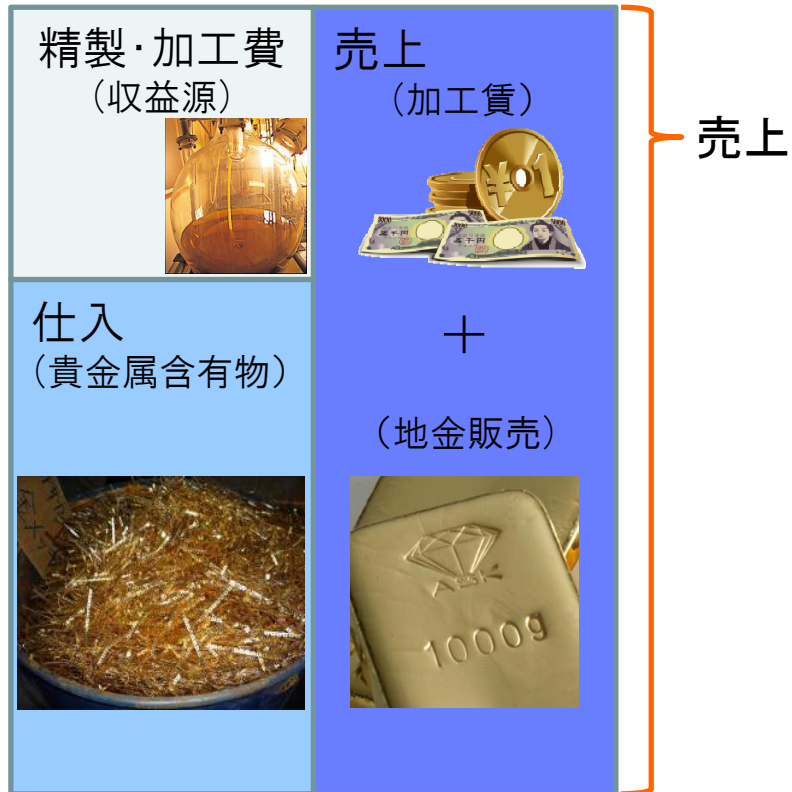
	2015年9月期		2016年9月期			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
連結売上高	8,964		7,790		▲ 1,174	
貴金属事業	8,133	89.4	7,042	88.9	▲ 1,091	▲ 13.4
連結セグメント利益	185		189		3,818	
貴金属事業	109	59.0	212	112.1	102	48.4

レアメタル・レアアースを含む

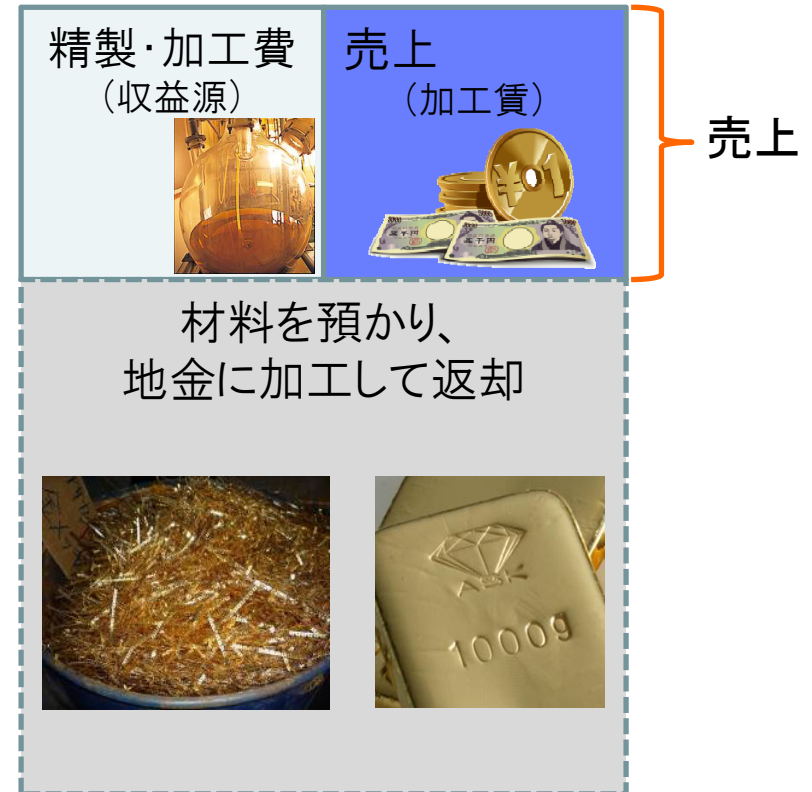
- 減収・増益の要因
- ✓ 主力製品の金の出荷量は前年比1割増加
- ✓ 金の受託加工取引割合の前期比2割以上上昇
お客様より当社が仕入、販売する金が減少し、売上高は減少
- ✓ レアアース・レアメタルの事業化により、全社費用の負担額が減少し利益が改善

受託加工取引について

■ 売買取引



■ 受託加工取引



受託加工取引: お預かりした貴金属を、精製・加工し返却する。
 売上は、精製・加工の手数料のみの計上となる。
 取引形態の変更による利益への影響はない

セグメント別業績③

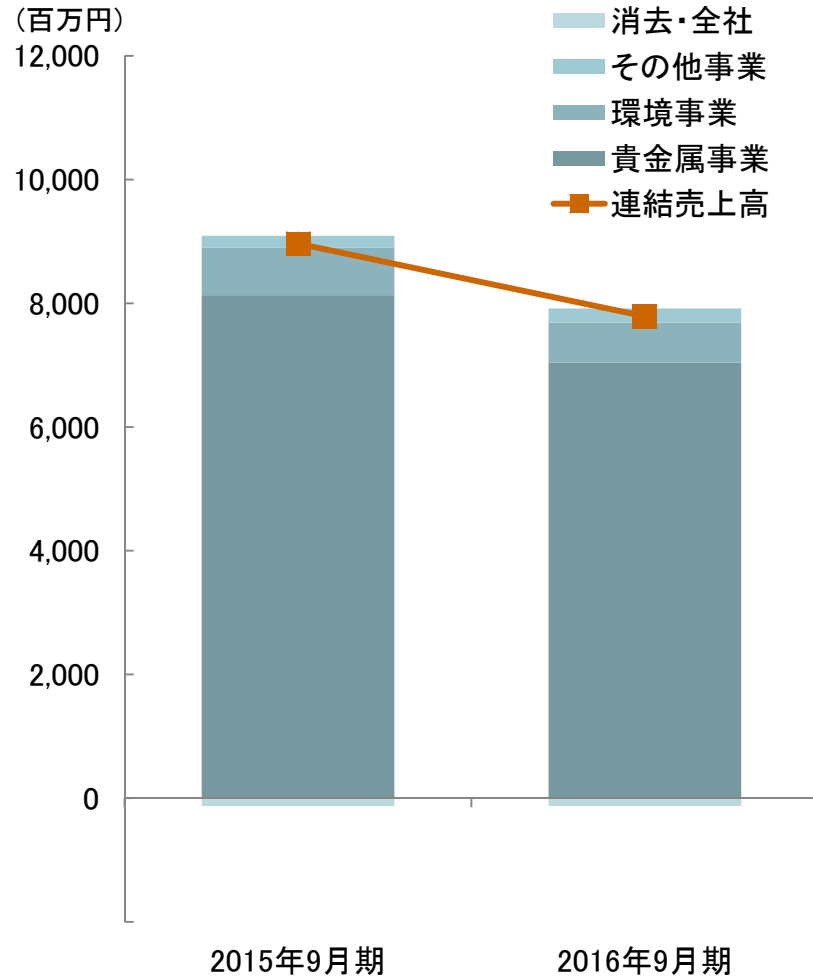
環境事業

	2015年9月期		2016年9月期			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
連結売上高	8,964		7,790		▲ 1,174	
環境事業	765	8.4	648	8.2	▲ 116	▲ 15.2
連結セグメント利益	185		189		3,818	
環境事業	68	36.7	▲ 44	▲ 20.8	▲ 112	-

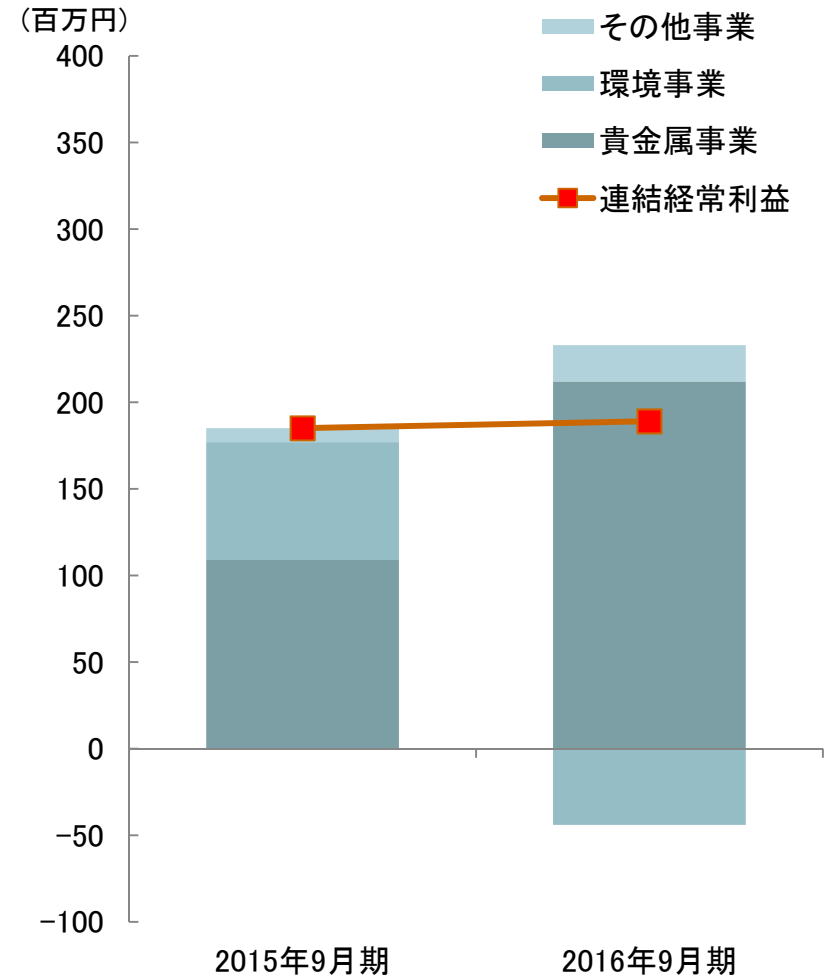
- 減収・減益の要因
- ✓ 主力製品のエッチング液、銅ペレットの販売数量は前期並み
- ✓ 銅相場は、前期を下回り、当期も下落が継続
- ✓ 光触媒、前期のスポット販売の反動等の販売数量減

セグメント別業績②

売上高



セグメント利益



連結損益の状況

	2015年9月期		2016年9月期			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	8,964	100.0	7,790	100.0	▲ 1,174	▲ 13.1
売上原価	7,495	83.6	6,347	81.5	▲ 1,148	▲ 15.3
売上総利益	1,469	16.4	1,443	18.5	▲ 25	▲ 1.7
販管費	1,258	14.0	1,219	15.7	▲ 38	▲ 3.1
営業利益	210	2.4	224	2.9	13	6.3
営業外収益	19	0.2	40	0.5	20	105.1
営業外費用	44	0.5	74	1.0	29	67.0
経常利益	185	2.1	189	2.4	3	2.1
特別利益	23	0.3	104	1.3	80	345.2
特別損失	4	0.1	14	0.2	9	204.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	125	1.4	227	2.9	101	81.0

連結財務の状況

		2015年9月期末		2016年9月期末			
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
						増減額 (百万円)	増減率 (%)
資	流動資産	2,392	43.5	2,732	47.4	339	14.2
	固定資産	3,111	0.0	3,026	52.6	▲ 84	▲ 2.7
資産合計		5,504	100.0	5,759	100.0	255	4.6
負	流動負債	1,558	28.3	1,678	29.1	120	7.7
	固定負債	1,595	29.0	1,546	26.9	▲ 49	▲ 3.1
	負債合計	3,154	57.3	3,225	56.0	70	2.3
純資産合計		2,350	42.7	2,534	44.0	184	7.8
負債純資産合計		5,504	100.0	5,759	100.0	255	4.6

増減理由

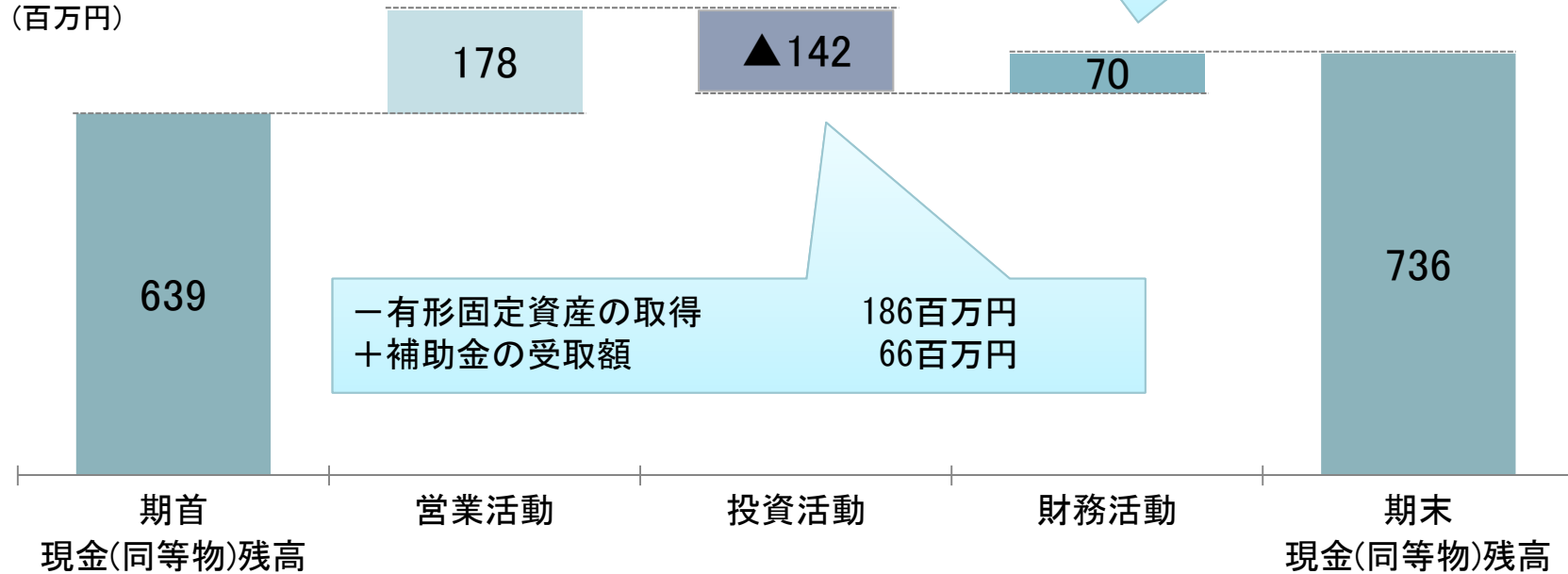
- 資産合計 +255百万円 現金及び預金+96 たな卸資産181
- 負債合計 +70百万円 借入金+255 社債-210
- 純資産合計 +184百万円 利益剰余金+189

キャッシュ・フローの状況

+税金等調整前当期純利益 279百万円
 +減価償却費 218百万円
 -たな卸資産の増加額 189百万円
 -特別利益の計上 104百万円

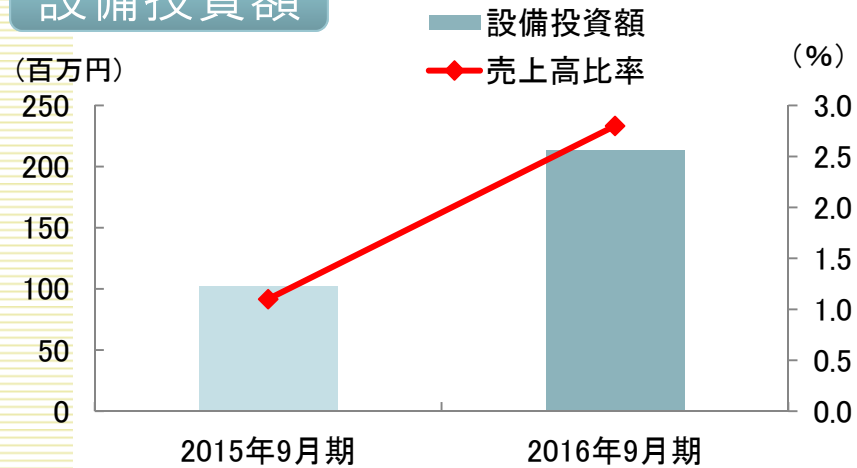
+短期借入金の純増額 276百万円
 -社債の償還額 210百万円

(百万円)

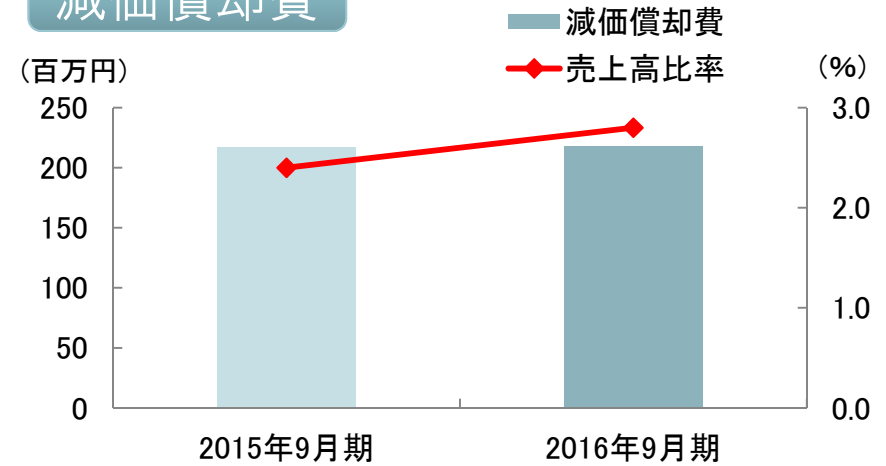


設備投資額・減価償却費・研究開発費

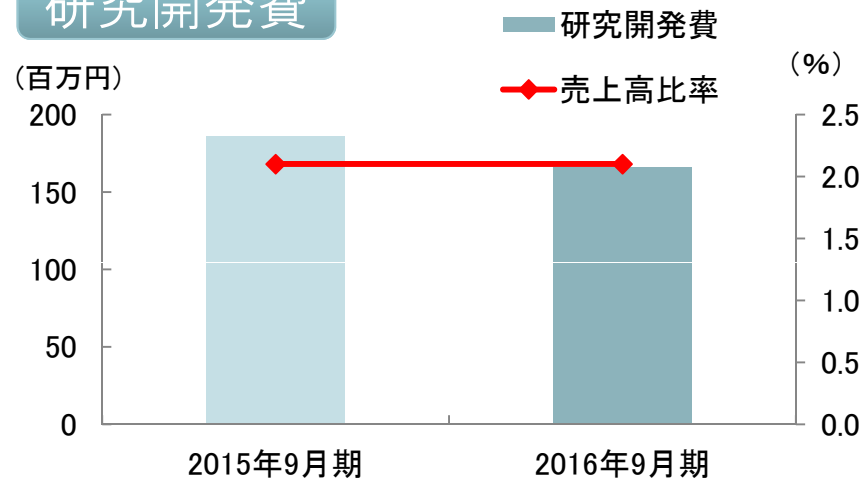
設備投資額



減価償却費



研究開発費



目次

- 第一部 2016年9月期決算実績
- **第二部 2017年9月期業績予想**
- 第三部 経営戦略について

2017年9月期業績予想のポイント

■ 売上微増、利益は減益

- 電子部品・デバイス分野の増産を取り込み貴金属数量増
- 金属価格が前期を下回ると予想し、売上高は微増
- 利益はレアメタルリサイクル実証事業への研究開発投資により減少

■ 金属価格

- 米国金融緩和縮小により、相場は弱含みで推移すると見込む
- 想定価格は 金 4,000円/g、銅 480千円/t

■ 当社の取組み

- いわき工場での第2次研究開発投資
- 製造工程自動化の取組継続等による既存事業の更なる効率化やコスト削減

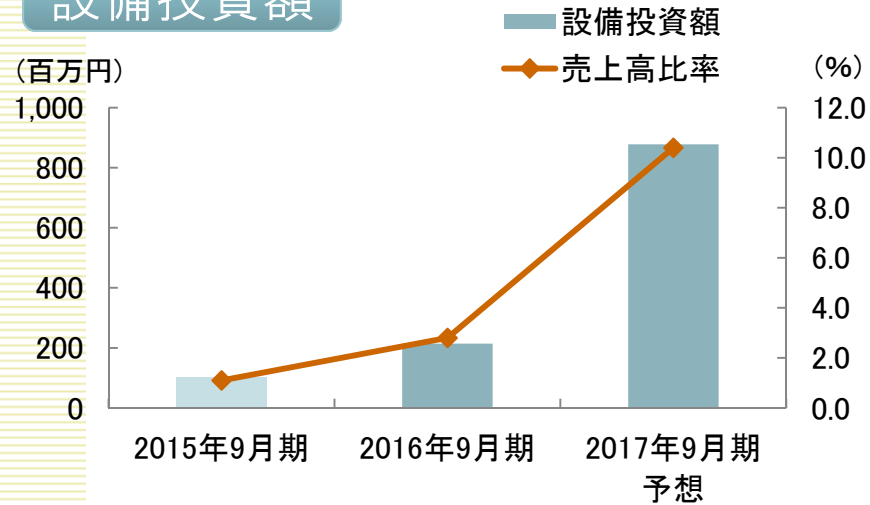
業績予想

	2016年9月期		2017年9月期 予想			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	7,790	100.0	8,485	100.0	694	8.9
売上総利益	1,443	18.5	1,536	18.1	92	6.4
営業利益	224	2.9	52	0.6	▲171	▲76.7
経常利益	189	2.4	9	0.1	▲179	▲95.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	227	2.9	85	1.0	▲142	▲62.5

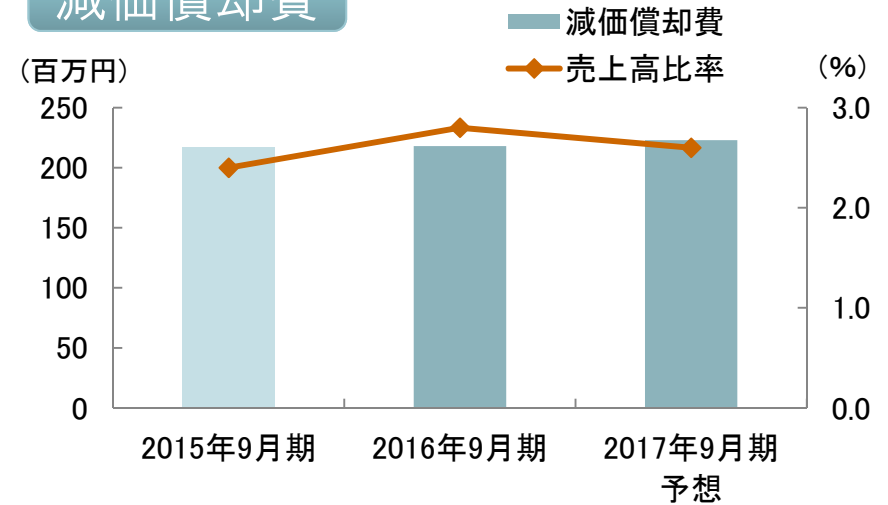
- 貴金属の出荷数量は増加
- 金属価格は前期を下回ると予想
- 研究開発投資による一過性の費用増
- 特別利益へ補助金の計上

設備投資額・減価償却費・研究開発費

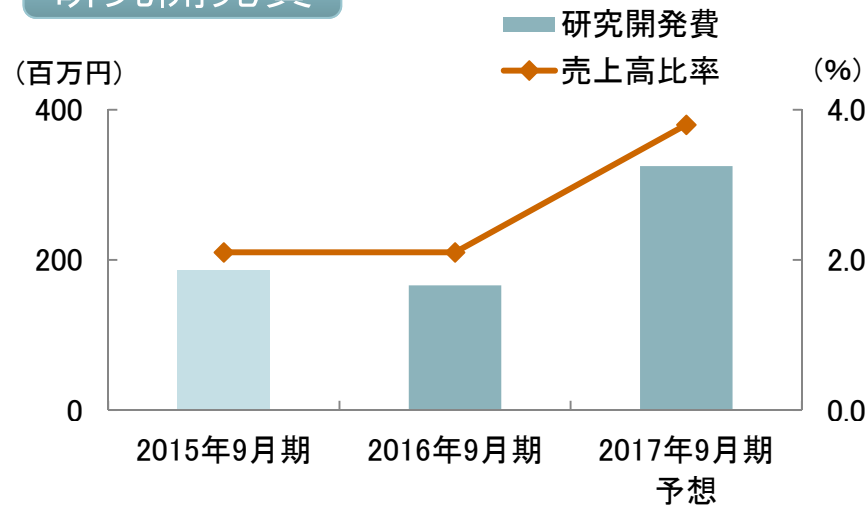
設備投資額



減価償却費



研究開発費



連結損益予想

	2016年9月期		2017年9月期 予想			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	7,790	100.0	8,485	100.0	694	8.9
売上原価	6,347	81.5	6,949	81.9	602	9.5
売上総利益	1,443	18.5	1,536	18.1	92	6.4
販管費	1,219	15.7	1,484	17.5	264	21.7
営業利益	224	2.9	52	0.6	▲ 171	▲ 76.7
営業外収益	40	0.5	6	0.1	▲ 33	▲ 83.2
営業外費用	74	1.0	47	0.6	▲ 26	▲ 35.7
経常利益	189	2.4	9	0.1	▲ 179	▲ 95.0
特別利益	104	1.3	112	1.3	8	8.4
特別損失	14	0.2	-	-	▲ 14	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	227	2.9	85	1.0	▲ 142	▲ 62.5

目次

- 第一部 2016年9月期決算実績
- 第二部 2017年9月期業績予想
- 第三部 経営戦略について

□ 当社のこれまでの業績の特徴

- ▶ 外部環境に左右されやすい
- ▶ 外部環境とは、電子部品・デバイス工業分野の生産動向や貴金属及び銅の価格変動

□ 安定した成長に向けた新規事業開発方針

- ▶ 外部環境の影響を受けにくい事業構造を実現
- ▶ 貴金属地金の販売から、付加価値を高めた製品への移行
- ▶ 技術開発投資により技術を蓄積し、新事業の創出を推進

□ 重点テーマ

- ▶ 既存事業の展開
- ▶ 成長市場への参入
- ▶ 新規事業の促進
- ▶ 海外事業の飛躍

既存事業の展開

- 貴金属、環境において
製品・サービスの付加価値をあげた事業展開を進める
- 貴金属事業
 - ・ コア技術(選択式剥離技術、溶媒抽出技術)を土台に
 - ・ 製造工程の全自動化、無人化に取り組み競争力を強化
 - ・ 製品の加工技術を上げ、付加価値を上昇
- 環境事業
 - ・ 工業用薬品の拡販
 - ・ 光触媒の新規用途向け市場開拓

既存事業の展開・成長市場への参入

- 貴金属事業
- 国内の電子部品・デバイス工業分野の生産は増加傾向
 - ・ 海外スマートフォンメーカーの増産
 - ・ 携帯基地局等への産業機器向け需要の増加
 - ・ 自動車の先行運転システムなどによる車載向け部品点数の増加
 - ・ IoT向け無線通信分野のデバイス数が拡大

コア技術(選択式剥離技術、溶媒抽出技術)をベースに
製造工程の自動化を進め、競争力を強化。
出荷量の増加を図る。

既存事業の展開・成長市場への参入

- 環境事業
 - 従来の営業基盤である、東北・北関東での新規取り扱い工業用薬品の拡販
 - 光触媒の販売量拡大
 - ・ 外装・ガラス用の販売拡大
 - ・ 住宅の新築・リフォーム市場へ挑戦

- レアアース・レアメタル事業
 - レアメタル製品の増販
 - ・ 光学ガラス業界での増販
 - ・ 電子部品業界へ材料供給を拡大する
 - ・ 新規開拓先での品質テストを順次クリア
 - 原料調達先の多様化
 - ・ スクラップ以外の原料確保
 - ・ 鉍石等からのレアメタル精製に取組み

■ レアメタルリサイクル技術開発

▶ 新技術の確立

- ・ 光反応を利用する固体化技術
- ・ EF法(エマルションフロー法)による
レアメタル分離精製の効率化技術
- ・ 乾式法による高融点金属処理技術

上記技術の実証実験は、「平成28年度 福島イノベーション・コースト構
想 地域復興実用化開発用促進事業(一次公募)」に採択

▶ 新製品の開発

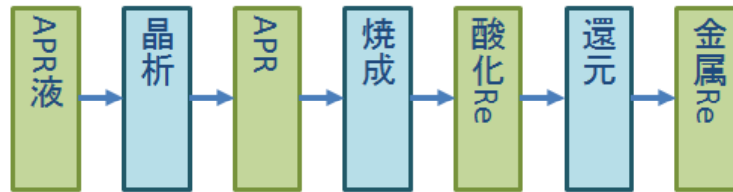
- ・ 製品のラインアップの拡大
- ・ 新たな収益源の確保

新技術の開発

光反応を利用するレアメタルの固体化技術

■レニウム固体化技術

●一般的なレニウム精製技術



課題: 晶析工程のコスト高

APR: 過レニウム酸アンモニウム

Re: レニウム

●新精製技術

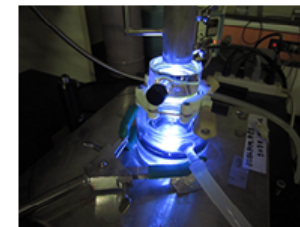
光反応を利用するReの還元固体化技術(神奈川大学)

特徴: 一般的な方法に比べ、早く・低コストで精製できる。

①回収率が高い

(APR液から直接酸化Re(水に不溶)を取り出すことが可能)

②加熱工程を必要としない(溶液からのRe回収に光(紫外線)を使用)



共同研究先: 神奈川大学(理学部 堀 久男教授)

新技術の開発

■レアメタルの一般的な精製方法は溶媒抽出法

●一般的な精製技術 ミキサーセトラーによる溶媒抽出

特徴：機械的な外力を用いて溶媒抽出。
大量処理能力を備える。
構造上装置が大きく（多段）なる。

●新精製技術 エマルションフローによる溶媒抽出

特徴：機械的外力ではなく微細液滴法を用いる。
連続的な抽出を可能としている。
（抽出スピードが速い）
縦型で省スペース化が可能。



➡ 湿式法としてレアメタル精製に活用

共同研究先：

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 先端基礎研究センター 長縄弘親研究主席)

新技術の開発

■ 高融点金属精錬法の実証

● 高融点金属の還元法

乾式法(高温処理)による還元処理が必須。
特殊な技術・装置が求められるため実施できる
メーカーが限定される(現状は海外メーカーが
主)。

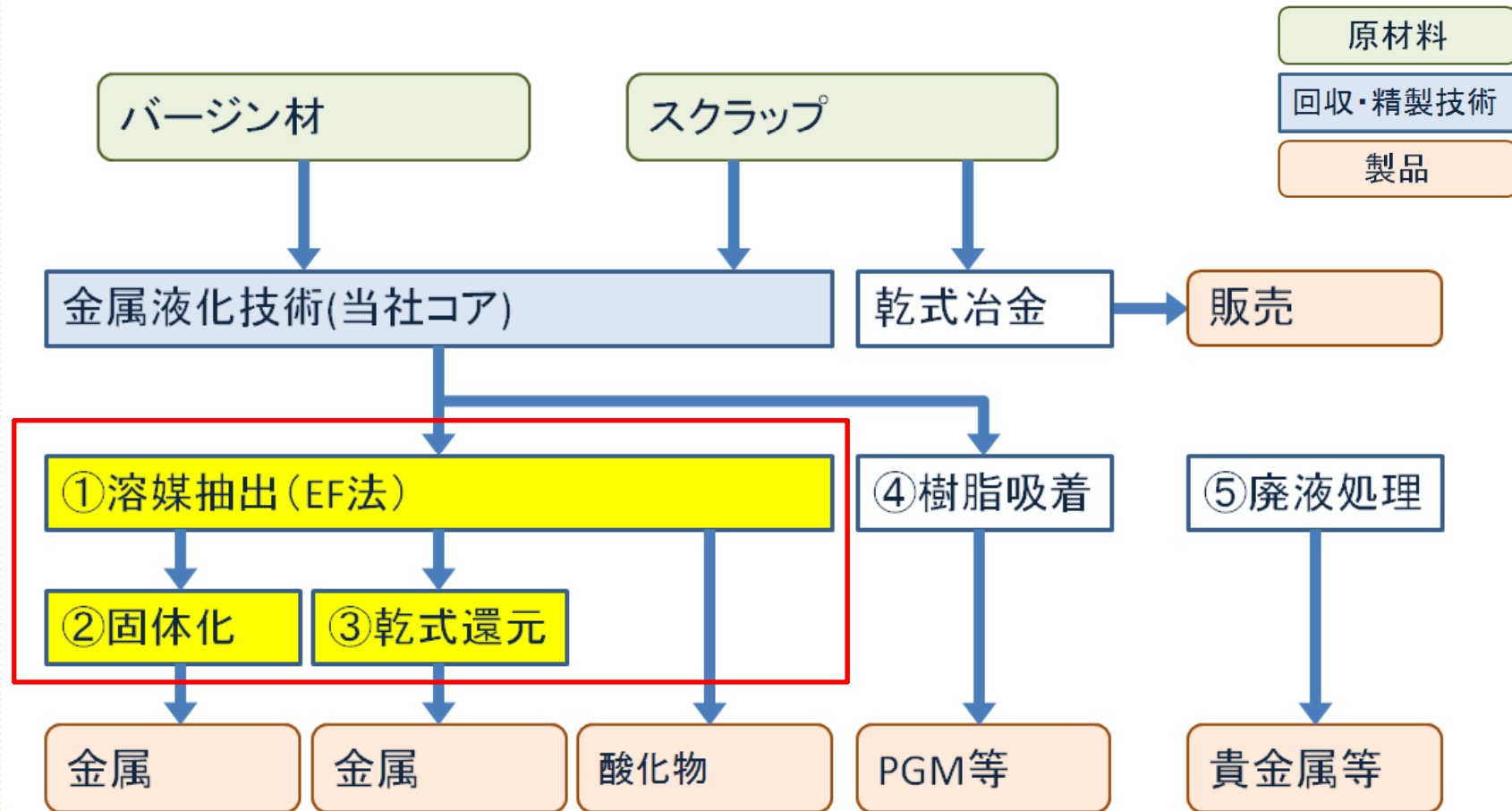
● 高融点金属の熔融精製法

高融点金属の乾式精製法の一つ。
微量不純物を高効率で除去できるが上記と同様
の理由により実施できるメーカーが限定される。

	融点(°C)
タングステン(W)	3,422
レニウム(Re)	3,186
タンタル(Ta)	3,017
モリブデン(Mo)	2,623
ニオブ(Nb)	2,477
バナジウム(V)	1,910

➡ **上記レアメタルの加工技術導入**

レアメタルリサイクル技術開発



赤枠内が、当期実施する実証実験

海外事業の飛躍

- マレーシア子会社の黒字安定化
 - 貴金属・レアメタルの増加により単年度黒字に転換
 - 収益面の課題: 安定した出荷量確保と拡大
 - 運営面の課題: 現地社員の教育を進め、現地化を図る
- 他海外市場への展開を推進
 - 東南アジア全域へ貴金属事業を展開





お問い合わせ先

IRに関するお問い合わせは下記までお願いいたします

株式会社アサカ理研 経営企画室

〒963-0725

福島県郡山市田村町金屋字マセロ47番地

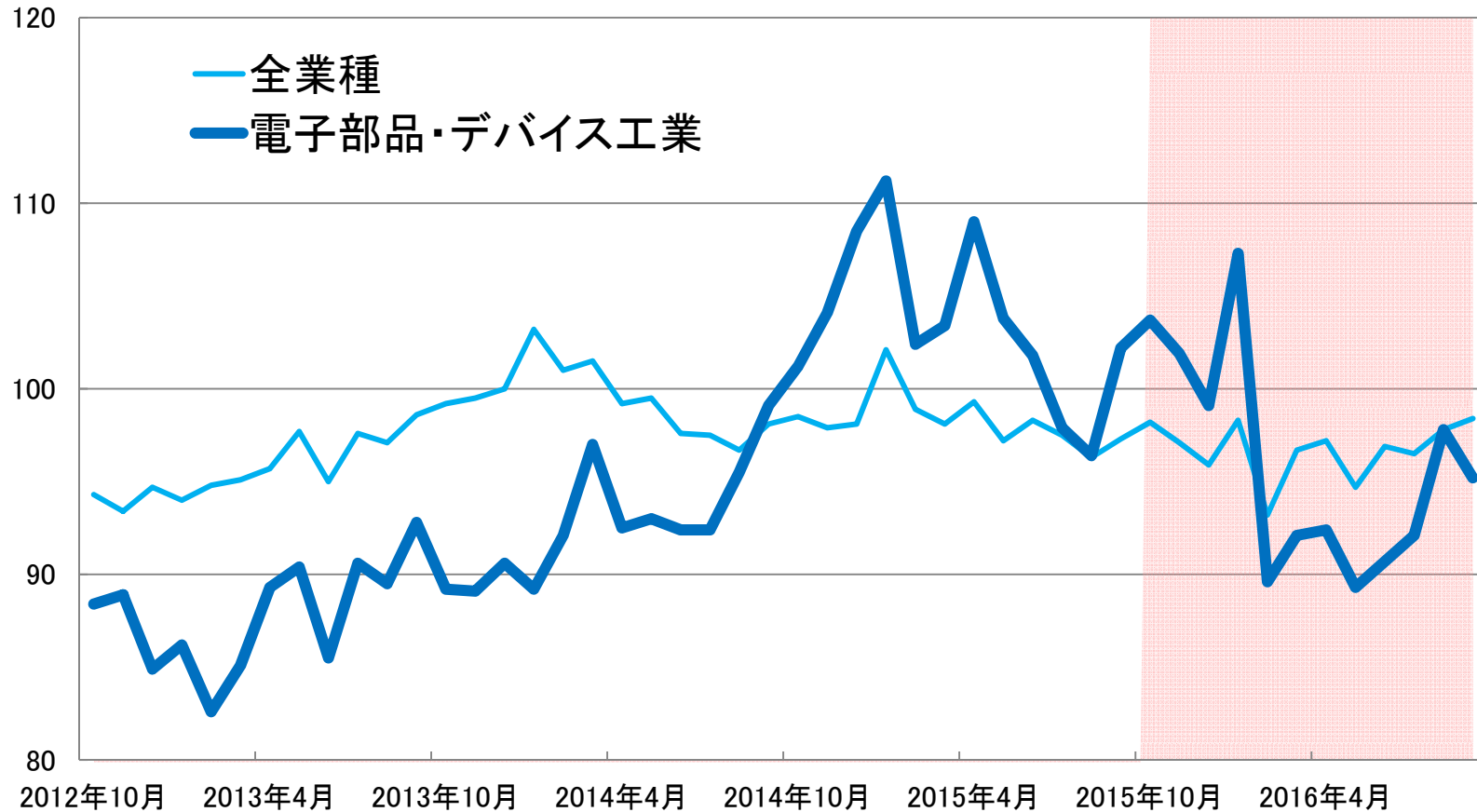
TEL:024(944)4744

FAX:024(944)4749

E-MAIL: ir@asaka.co.jp

URL: <http://www.asaka.co.jp/>

【参考】事業環境① 鈇工業生産指数

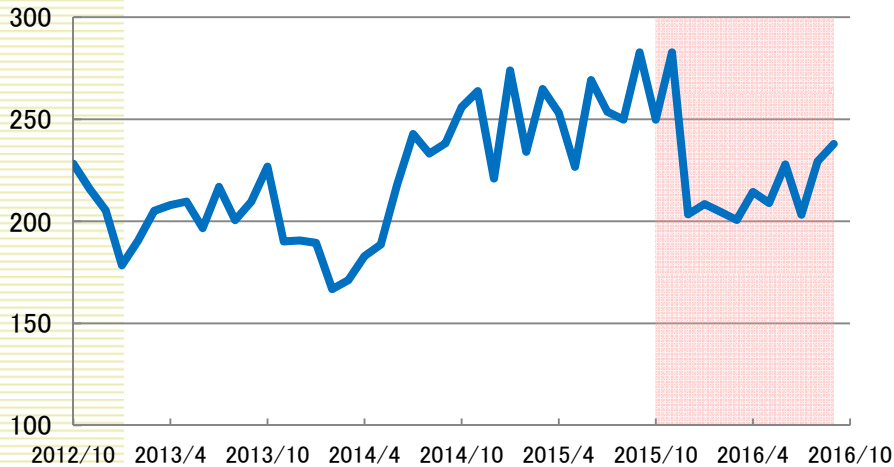




【参考】事業環境②業界別生産実績

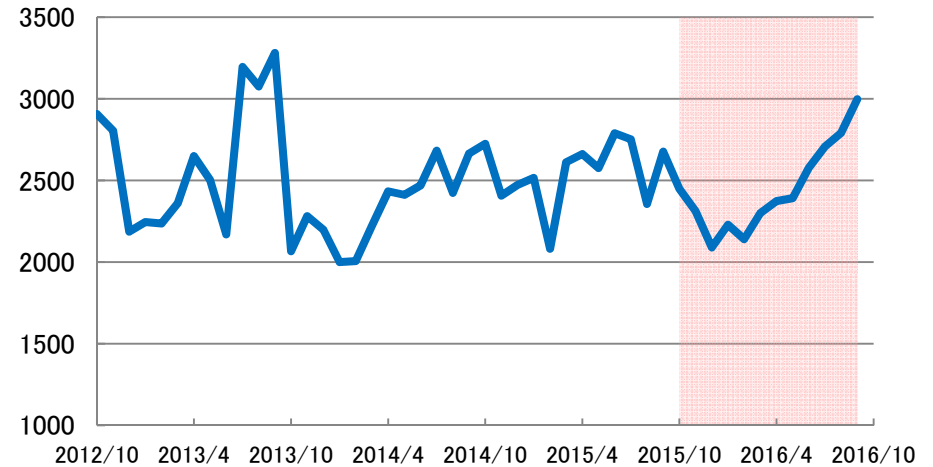
(百万個)

水晶デバイス



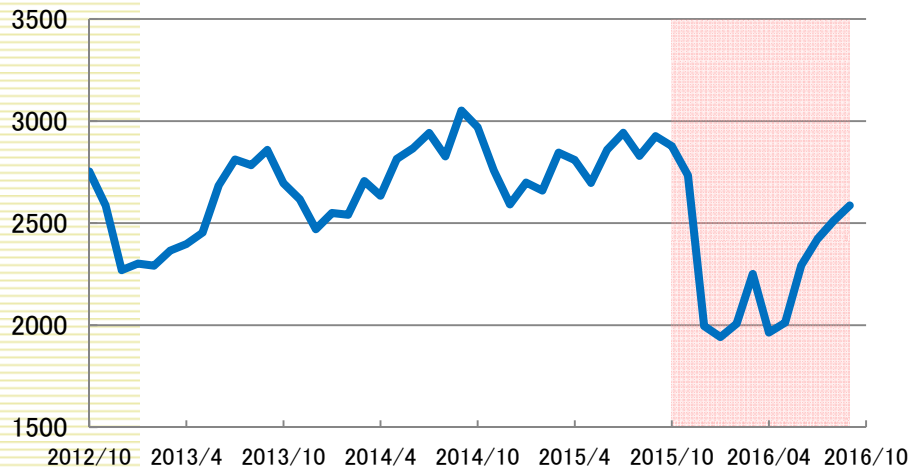
(百万個)

コネクタ



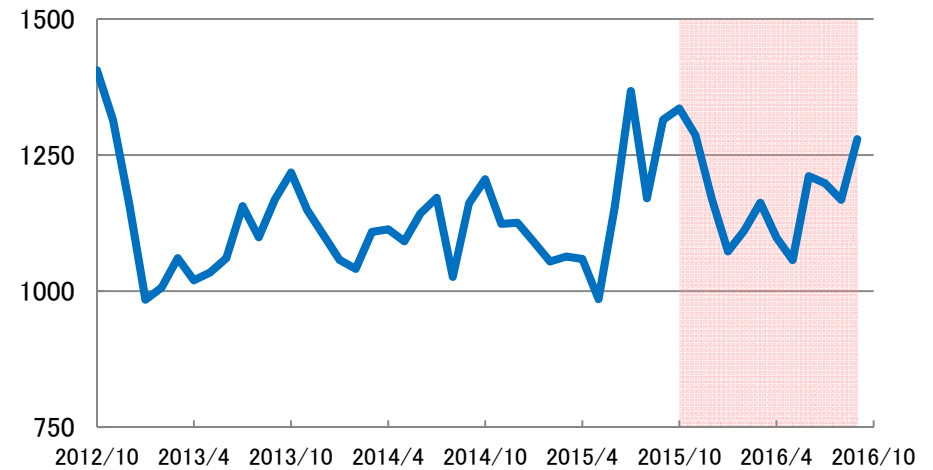
(百万個)

半導体集積回路



(千m²)

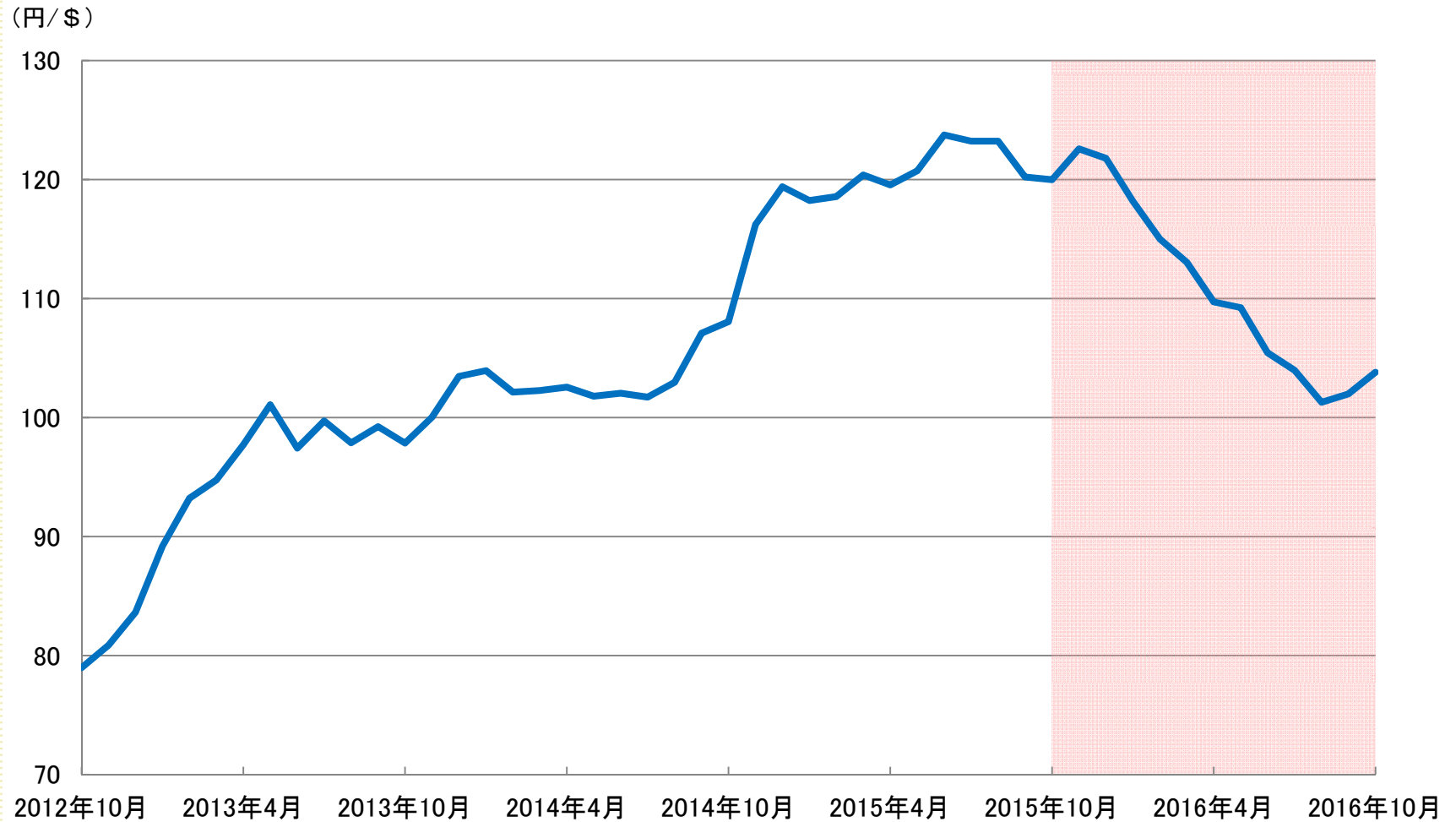
電子回路基板



出所:(社)電子情報技術産業協会

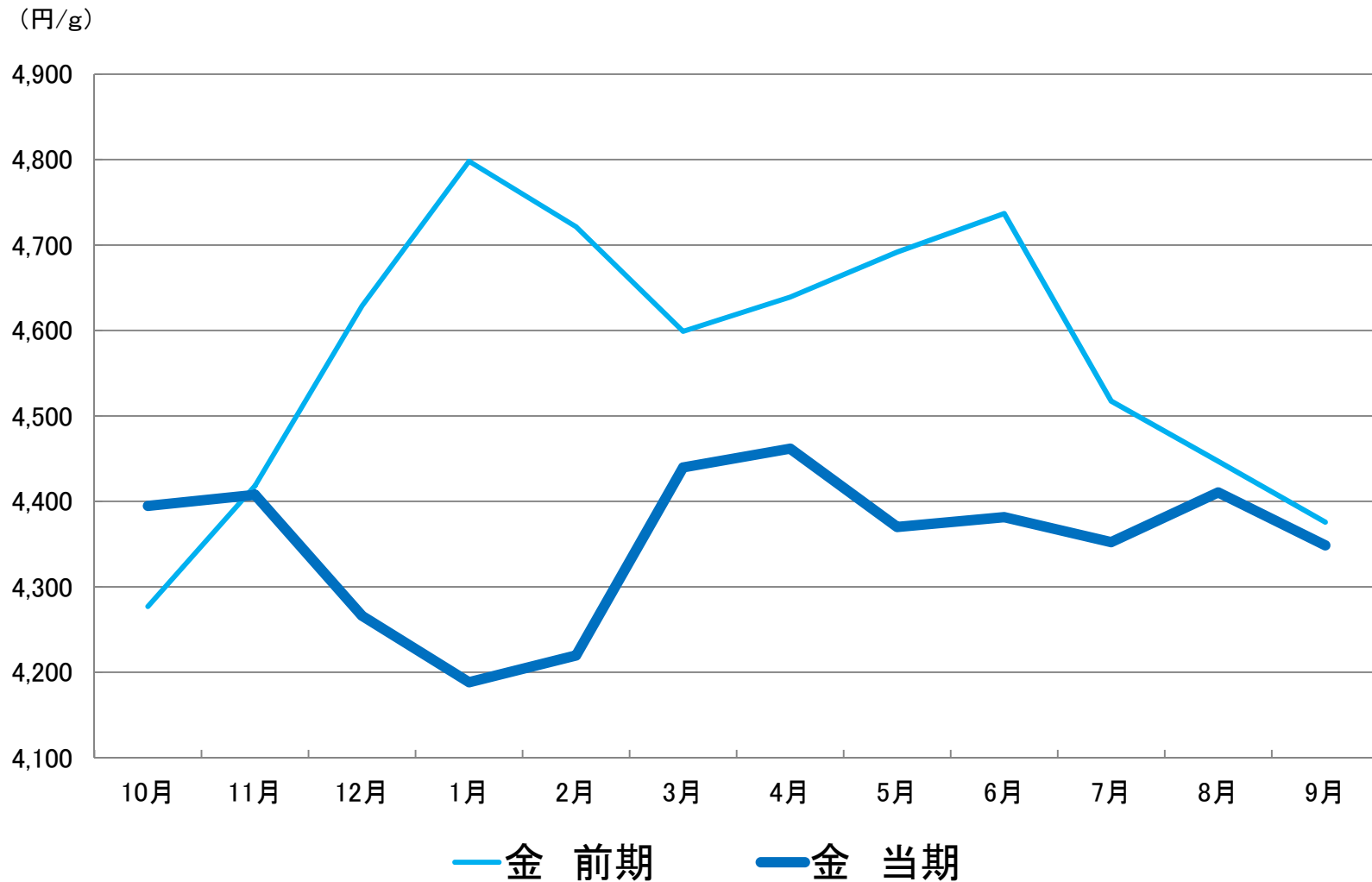
株式会社アサカ理研

【参考】事業環境③為替相場

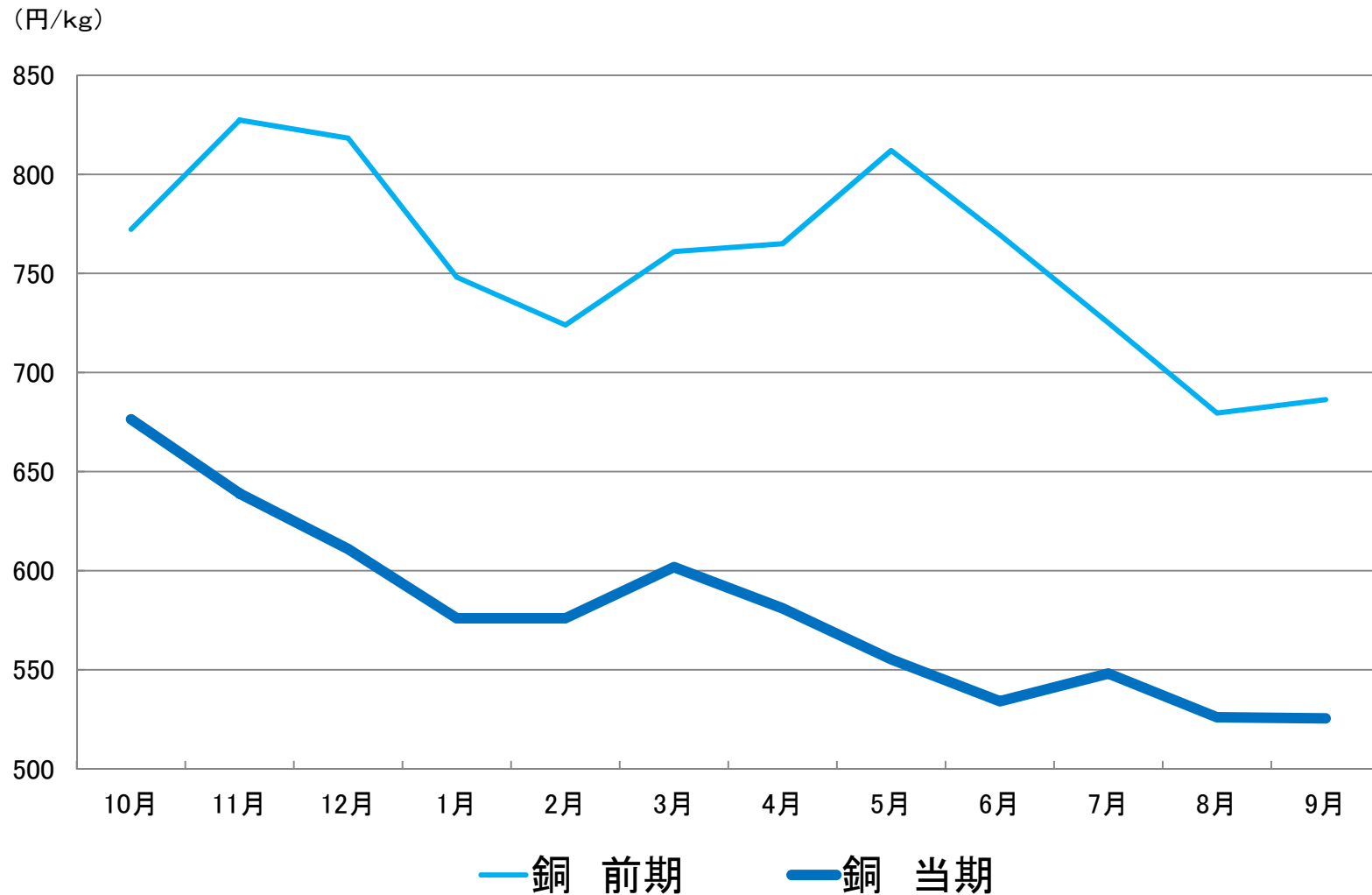


出所: 日本銀行(東京市場ドル・円 スポット 中心相場/月中平均)

【参考】事業環境④金価格



【参考】事業環境⑤銅価格



本資料の取り扱いについて

- 本書には、当社及び当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘(以下「勧誘行為」という。)を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。